

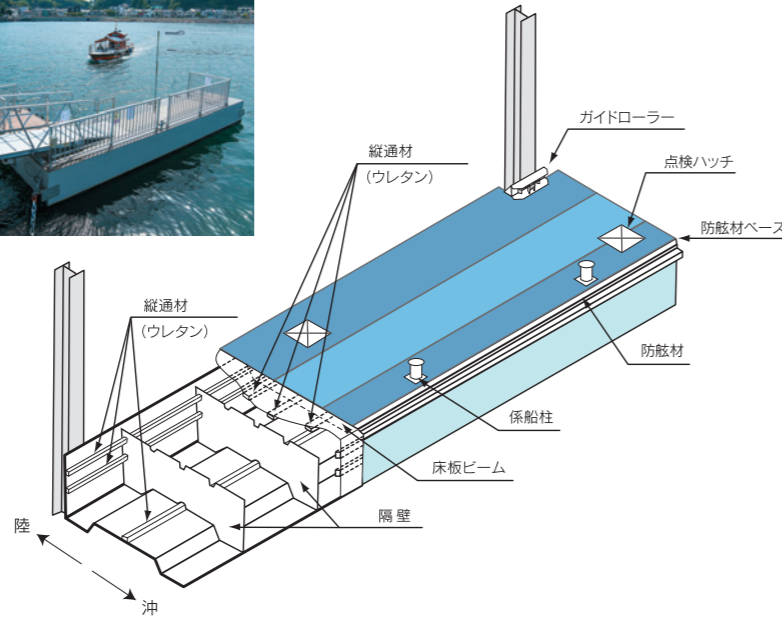
YAMAHA FRP ポンツーン

世界で6番目に長い海岸線を持つ日本。海や水との強いかかわりは日本人のアイデンティティの一つとも言えるでしょう。海と私たちをつなぐ大きな役割を果たすのが漁港やマリナーです。ヤマハ発動機は、利用者の立場から考え、安全で快適、そして美しいウォーターフロント環境の実現に貢献します。



YAMAHA FRP ポンツーンの特長

甲板とフロートを一体構造としたモノコックタイプとしています。床板はサンドイッチ構造とし剛性を高め縦通材、ビーム及び隔壁により十分な強度を確保しました。また、フロートは隔壁により区切り、必要に応じた水密区画を設け、万一の浸水にも沈まない構造としています。



- | | |
|--------------|---|
| 構造 | ●ガラス繊維と樹脂により本体を一体形成する。(漁船と同じ材質である。)
●水密性は極めて良好である。不沈構造(水密区画を設ける) |
| 耐久性
維持管理費 | ●FRP本体は腐らない為、維持管理は不要である。(現在、漁船等は30年以上使用されている。)
●万が一破損した場合でも現場で補修工事が容易に出来る。 |
| 安定性 | ●一般的な仕様の製品で8トン程度の重量がある上、バラストにより重心を低く設定しているため安定性は高く、加えて独自の船底形状により揺れに対する復原力も高い。 |
| 乾舷 | ●FRPモノコック構造は浮力が大きい為、船の大きさにあわせて、乾舷を0.5m~1.2mに自由設計することができる。 |
| 喫水 | ●バラストを使用することにより喫水30cmを確保している。
●水深が浅い港でも設置可能である。 |
| 施工性 | ●一般的な仕様の製品でも最大重量が8トン程度であるため、現地据付工事が容易である。
●トレーラーによる運搬が可能である。 |
| リサイクル性 | ●FRP素材は、ほぼ100%リサイクルが可能であり主にセメント原料等に再利用されている。 |



営業所のご案内 プールのことならお気軽に

ヤマハ発動機株式会社 FRP事業推進部 プール営業部 TEL 053-594-6512 〒431-0302 静岡県湖西市新居町新居3078

東京営業所
販売課 TEL.03-3454-2434
〒108-0023 東京都港区芝浦3-5-39 田町イーストウイングビル3F
東北販売課 TEL.022-301-7102
〒981-0933 宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台ビル3F
中部販売課 TEL.052-218-4366
〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦1-17-26 ラウンドテラス伏見4F

西日本営業所
販売課 TEL.06-6268-0520
〒541-0052 大阪府大阪市中央区安土町3-4-16 船場オーセンビル4F
九州営業所
販売課 TEL.092-472-7815
〒812-0008 福岡県福岡市博多区東光2-6-6 第3フジラビル3F
www.yamaha-motor.co.jp/



210077



ASICS Sports Complex TOKYO BAY

最新 フィットネス・スイミングプール情報

CONTENTS

- 1 佐賀ユートピアスポーツクラブ(嬉野市)
- 3 KSPスイミングクラブ(呉市)
- 5 ASICS Sports Complex TOKYO BAY(江東区)
- 9 トーアセントラルフィットネスクラブ 阿佐谷(杉並区)

佐賀ユートピアスポーツクラブ

フィットネス・スイミングスクール・デイサービスが融合する地域に密着したスポーツクラブ

KSPスイミングクラブ

スイミングスクールからスポーツクラブへ 地方都市における新しいスポーツクラブ

ASICS Sports Complex TOKYO BAY

世界最大級*の都市型低酸素環境トレーニング施設 *都市型低酸素環境下トレーニング施設として、2019年8月時点、アシックス調べ

トーアセントラルフィットネスクラブ 阿佐谷

3週間で実現するプールのリニューアル



長崎街道の宿場町として栄えた塩田町。今も伝統的な建造物が数多く保存されています。有明海の大さな潮位差を利用して塩田川を船が行き来する塩田津は、物流の要として地域の産業や文化の発展に大きく貢献してきました。



支配人 古賀 速水 さん

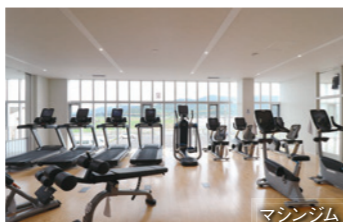
父親は水泳が大好きで、佐賀県の水泳連盟の理事長を17年間務めました。私も速水(はやみ)という名前をもらい、小学校までは弟と一緒に水泳をしていました。その後、別の道別の仕事に進んでいたのですが、結局水泳に携わることになりもう35年になります。不思議ですね、運命ですかね。

2019年7月、佐賀ユートピアスポーツクラブがグランドオープンしました。クラブ内には、プール設備やスポーツジムの他、カフェ、高齢者デイサービスを併設、幅広い年齢層の方々が気軽に立ち寄れる拠点作りを目指しています。運営主体である社会福祉法人たちばな会は長年にわたり地域に密着した社会福祉事業を続けており、スポーツと福祉が融合した新しいコンセプトでの運営が期待されます。

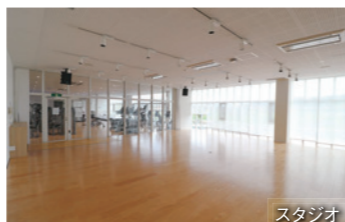


地域の人たちの健康と交流のために

「子供から高齢者まで幅広い年齢層の人たちが交流できる健康づくりの拠点としてオープンしました。プール、ジムやスタジオ、屋内ランニングコース、高気圧酸素ルームのスポーツエリアに加えて建物内では高齢者デイサービス、カフェ、カラオケを運営しています。また全館で障がい者の方々に働く場を提供しています。様々な目的を持った人が来館し、リラックスできる雰囲気の中で交流が深まる場所になると嬉しいです。」(古賀支配人)



マシンジム



スタジオ



高気圧酸素ルーム



屋内ランニングコース



カラオケルーム



デイサービス施設

スイミングスクールと学校水泳授業の受託

「スイミングスクールには、幼稚園/保育園の生徒が500名、小学生が500名通っています。選手の育成にも力を入れています。昨年11月に東京辰巳国際水泳場で開催された東京スイミングセンタージュニア優秀選手招待公認記録会では、50m全国3位に入りました。」(古賀支配人)

小学校の水泳授業も受託されています。今は、小学校6校へ出かけて水泳の授業や先生方に指導方法を教えているとのこと。

「今年は、市から要請があり、1校だけ8月末から11月までこの施設で水泳授業を行うことになっています。学校プールの老朽化などからこのようなケースは今後増えていくでしょうね。屋内なので、年中泳げますし。」(古賀支配人)



25m×6コース

信頼されるヤマハFRPプールとゲルコート仕様レーンライン

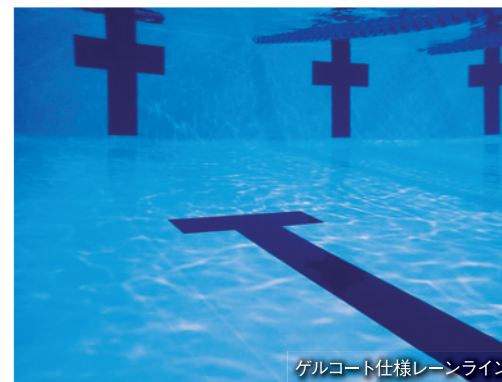
「実は以前の職場もヤマハFRPプールでした。建設後35年が経過して鉄骨造の建物はかなり老朽化し、取り壊しになったのですが、プールはとてもきれいで、処分するのはもったいないなあと思いました。その前の佐賀の施設もヤマハのプールでしたし、ヤマハのプールはとても信頼しています。永遠に使えるのではないのでしょうか。」(古賀支配人)

塗り替えのいらぬゲルコートレーンラインが採用されました。ゲルコート仕様のレーンラインは、後から塗装するのではなく工場生産段階でプール本体表面と同じ仕様で造られるため塗り替えの必要がありません。

「以前の職場のプールは、私がかかわった15年間で2回塗り替えを行いました。長く使うとレーンラインはどうしても色褪せます。今度のプールは色褪せもなく、塗り替えしなくてよいのでとても助かります。水を抜いて、磨いて、塗装して、養生してまた水を入れる。費用も期間もかかります。長い期間使用するプールですからメリットがありますね。」(古賀支配人)

「水はひとのこころをやさしくする」

私と同様、長年水泳指導に関わった父から受け継いだ言葉です。地域の人たちにたくさん来ていただき、水の力で心と体が健康になり、皆さんが長く楽しく過ごしていただくと本当に幸せです。



ゲルコート仕様レーンライン



ゲルコート仕様5mライン



50mプール 4レーン 水深1.8m



25mプール 3レーン 水深1.35m



世界最大級*の都市型低酸素環境トレーニング施設

*都市型低酸素環境下トレーニング施設として、2019年8月時点、アシックス調べ

1949年に生まれたアシックス。多くのアスリートがアシックスのシューズやウェアを身に付け、世界の大舞台で活躍し続けています。そのテクノロジーは製品開発に活かされ、人々のスポーツへの参加や健康づくりに大きく貢献してきました。「スポーツでつちかった知的技術により、質の高いライフスタイルを創造する」というビジョンのもと、2019年、アシックスの新たな挑戦が始まりました。その一つが、Dタワー豊洲にオープンした大規模低酸素環境下トレーニング施設「ASICS Sports Complex TOKYO BAY」です。

このエリアは、豊洲市場や2020年東京オリンピック・パラリンピックの有明会場にも隣接し、健康とスポーツ振興の中心地のひとつとして開発が進められています。

ASICS Sports Complex TOKYO BAYでは、これまで高地でしか実現できなかったトレーニングを、基礎体力向上や、ボディメイク、健康寿命延伸などを目的とした一般の人でも利用することが可能となり、国内外から大きな注目を集めています。



(C)2019 ASICS Sports Complex

低酸素環境下トレーニングとは

低酸素環境を利用したトレーニングは、通常環境に比べて全身持久力の向上に効果的であるとされています。全身持久力※1は、最大酸素摂取量※2に大きく関係します。低酸素環境下では、血中酸素飽和濃度が低下し、酸素運搬機能に負荷がかかるため、その状態でトレーニングを行うことで、筋肉に酸素を取り込む能力の向上や、それに伴う最大酸素摂取量の増加を効率よく行うことができる可能性があります。しかし、その環境を得るために高地へ出かけて行うトレーニングは、時間的・経済的面で負担が大きく、生活全般の管理も必要となり、リスクを伴います。

そこで、開発されたのが常圧低酸素室を利用したトレーニングです。常圧低酸素環境は、窒素発生器から出るほぼ100%の窒素と、通常構成の空気を混合し、それぞれの流量を調整することで酸素濃度をコントロールし、作り出します。これまで国内では、施設(低酸素環境室)の規模が小さく、特定アスリートや研究者の利用がほとんどでした。

ASICS Sports Complex TOKYO BAYは、酸素濃度をコントロールできるトレーニングルーム(全長50mのランニングレーン2レーン、各種トレーニングマシンと、人工芝エリアを設置)、スタジオ、プール室(50m×4レーンと25m×3レーン)を備えた、画期的な大規模都市型低酸素環境下トレーニング施設です。

また、学校法人立命館とアシックススポーツ工学研究所の共同研究により、アスリートだけではなく多くの人が安全かつ効果的に低酸素環境下でトレーニングが実施できるプログラムの開発が進められています。今後、全身持久力の向上や生活習慣病の予防にも大きな期待が寄せられています。

※1 長時間体を動かすことのできる能力

※2 1分間に体内に取り込まれる酸素の最大量



(C)2019 ASICS Sports Complex



環境モニター



トレーニングルーム2



姫田 雅祥 施設長

姫田 雅祥 施設長 にお話を伺いました

▶自然高地トレーニングとの違い

「高地トレーニングとの一番の違いは、酸素濃度はコントロールできますが、気圧は変わらない、常圧であることです。高地トレーニングで体調が変化した場合、山から下りなければなりません。ここは部屋から出れば通常環境ですから、安心してトレーニングをしていただけます。」

「既に、常圧の低酸素環境トレーニング室を持つ施設は他にもありますが、エアロバイクが数台やプールも水中トレッドミルが設置できる程度で規模が小さく、利用料金も時間単位で、高額なところもあります。当施設は、通常のフィットネスクラブに比べると料金設定は高めですが、会員になっていただければ、プール、トレーニングルーム、スタジオなどすべての施設でトレーニングを行うことができます。」

▶一般の人が低酸素環境でトレーニングを行うメリット

「酸素濃度にもよりますが、通常環境のトレーニングに比べて、短い時間で効果が期待できるため、筋肉や関節にかかる負担も低減できます。」

「先行研究では、低酸素環境下でトレーニングを行うと体脂肪量が減少したという報告もあり、生活習慣病の予防にも期待ができるとしています。低酸素環境下のトレーニングによる効果は個人差があることもわかっています。お客様の低酸素環境における体の応答などを測定したうえで、低酸素環境下でのトレーニングを行い、データを蓄積、分析して、それをまたお客様へフィードバックしていきたいと考えています。」

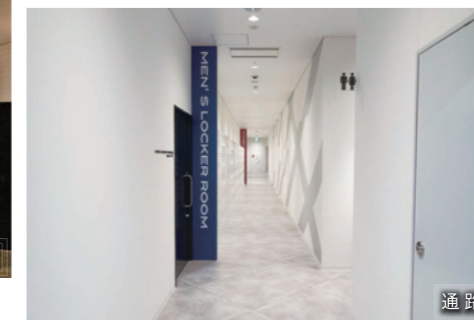
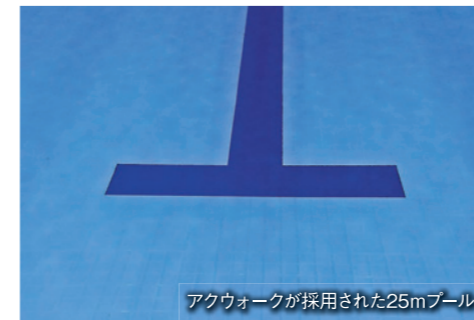
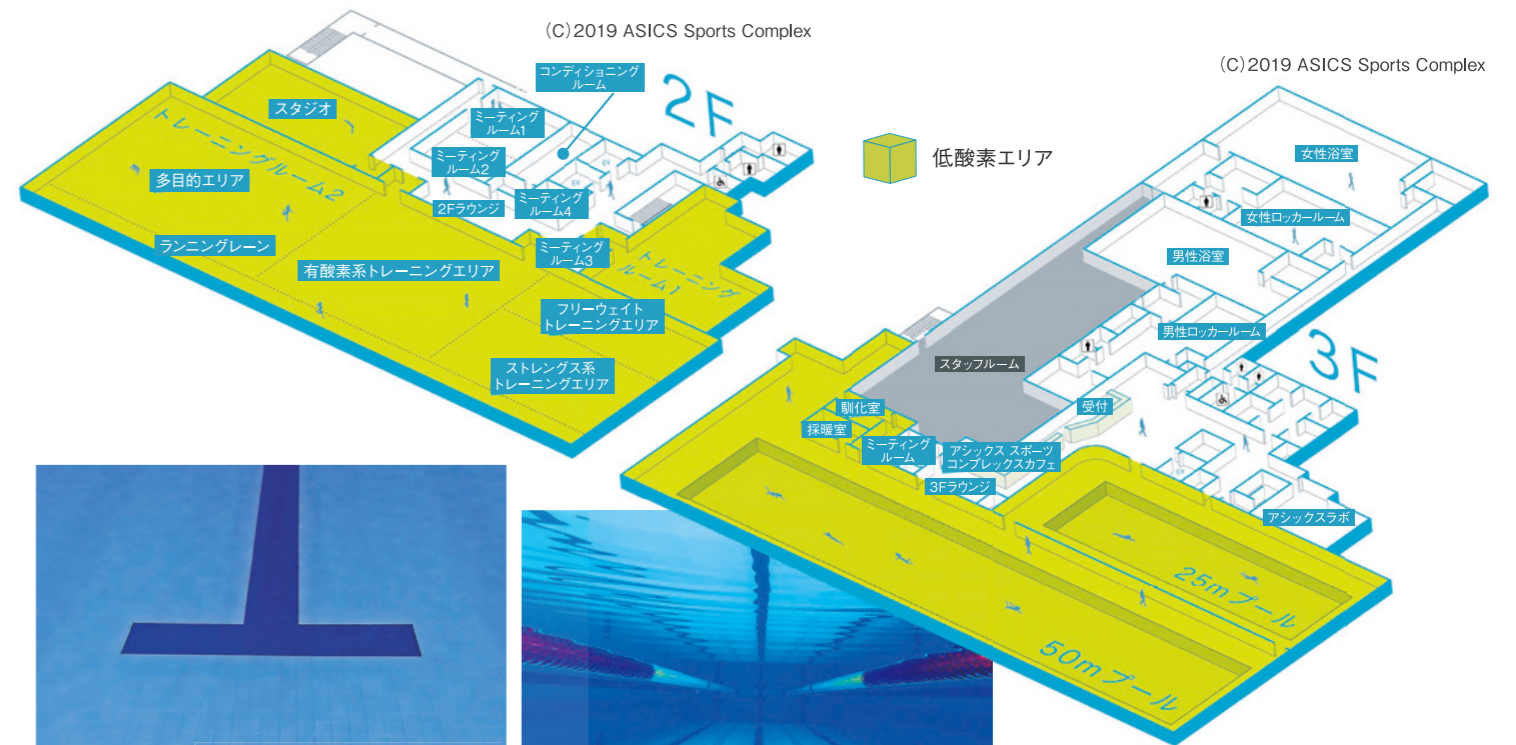
施設内にはアシックススポーツ工学研究所の分室があり、学校法人立命館と共同研究を実施しています。低酸素環境下と通常環境下におけるデータを比較し、安全で効果的なトレーニングの実現がサポートされます。

▶プールに関して

「水泳に関しては、高地トレーニングのデータが陸上競技に比べて少なく、今後継続した研究が行われていきます。50mプールは水深が1.8mあり、スタート台も常備され、他の施設ではできないトレーニングができるので、大会に出場するような競技志向のお客様がわざわざ遠方からお越しになることも多くあります。25mプールは、平日は通常環境、土日のみ低酸素環境の設定で、近くにお住まいの方がウォーキングをしたり、軽く泳いだりされています。床が滑らない仕様になっているので一般の方にも使いやすいプールです。」

▶アシックススポーツコンテンツ "ヒト、モノ、コトをつなぎつつ、新しいニーズをつかみ、市場を創造する"

「指定管理業務などでの公共施設を除くと、アシックス独自の施設でここまで大規模なスポーツ施設の運営は初めてです。低酸素環境での見聞も含めて、ここで蓄積されたデータは今後の事業活動にもフィードバックされます。それは、シューズなどの製品づくりだけでなく、新しいソフトやサービスにも展開されます。」



体験レポート



東京営業所
井本 克典さん

「初めに施設の説明を受け施設内を見学させて頂きました。トレーニング施設はもちろん、ランニング機能測定サービスやトレーニング後のリカバリーを行うコンディショニングルーム、浴室など、スポーツをするために、ここまで充実した施設は初めてでした。現役で活躍されているアスリート、これから本格的にチャレンジされる方、あの頃の身体を取り戻したいと考えている方にも最高の施設だと感じました。体験会は、スタッフの方々に丁寧にサポートいただき、初めてのマシンもリラックスして楽しみで取り組みました。また、自分の身体の状態が直ぐに数値化されることも新鮮でした。」



3週間で実現するプールのリニューアル

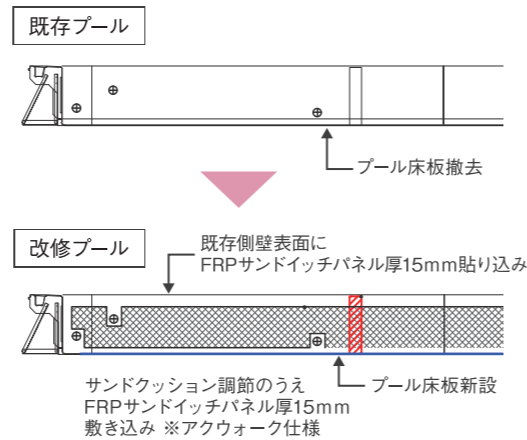
運営されている施設のプール改築、改修には工事期間、資材の搬出入、周辺環境への配慮など、クリアしなければならない条件が多くあります。その中で予算をできるだけ抑えて品質を確保することが必要になり、施設の管理運営者にとってはとても難しい問題です。今回は、老朽化したFRPプールを、ヤマハFRPユニットで改修する工法が採用され、リニューアルが行われました。

林 達也 支配人にお話を伺いました。

「平成元年のオープンから30年間使われてきたFRPプールは、数年前に1度再塗装が行われましたが、色褪せが顕著で、他にも補修費が膨らんでいく傾向にあり、根本的なリニューアルが必要でした。ベビースイミングから高齢の方までプールの利用者は多く、できるだけ短期間で改修が必要でした。」

改修にあたり、いくつかの工法が検討されました。

「再塗装も検討しました。予算が安く工期が最も短くて済みますが、数年で色褪せが起こり、また対処しなければなりません。次に、タイル貼りを考えました。この場合、プールは3階に設置されているため、建物にかかる重量が問題になります。さらに、既存のプールに貼るには、タイルを貼る下地が必要になります。」

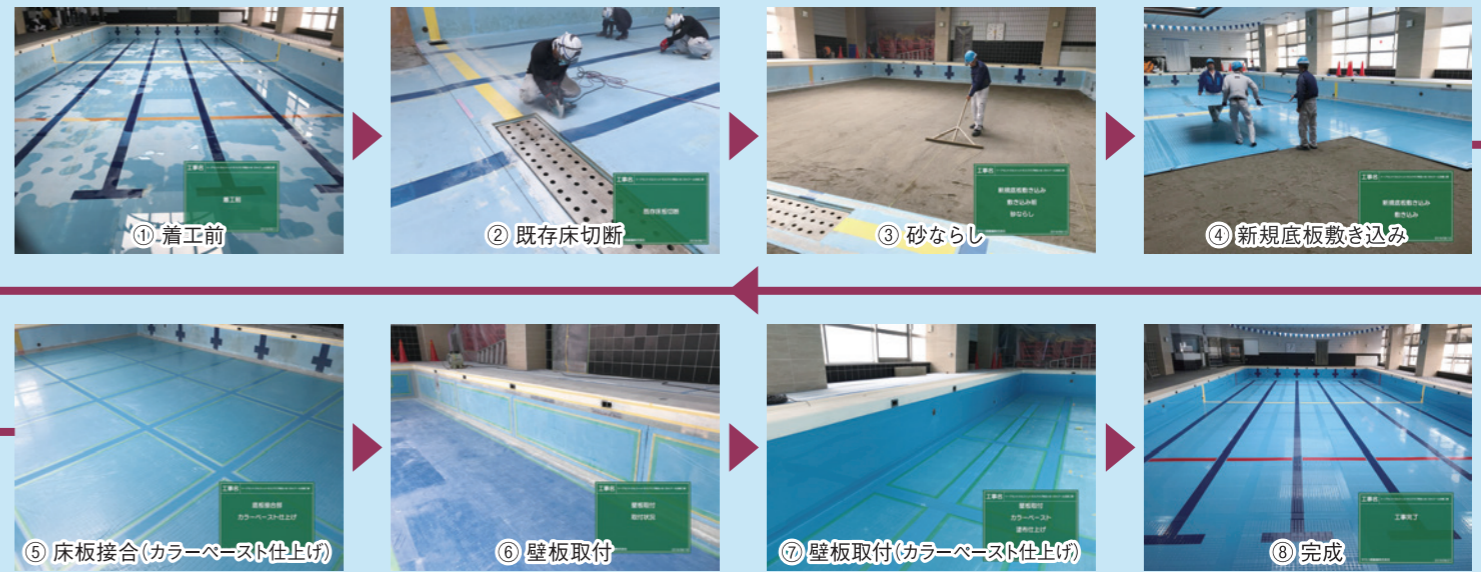


ヤマハFRPプールが採用された理由は？

「これらの問題を解決できるのが、ヤマハのFRP工法でした。新設と同じクオリティーが確保できて、工期が短いこと。プール本体の重量も既存プールと変わりません。プールフロアのアクウォークも魅力でした。泳ぐだけではなく、ウォーキングやアクアビクスも人気のプログラムなので、お客様からは、『歩きやすい、足の裏が床にかかって力が入りやすい』と、喜んでいただいています。」



プール改修工程



長く通っていただいているお客様のために毎年行うリニューアル



学生時代は野球をされていた林さん。ここで勤務されて22年になります。

「会員のほとんどが1km圏内の方です。オープンから30年、私より長く通っていただいているお客様もいます。平日は朝6時半からの営業なので、朝風呂に入り、会社へ行き、帰りにトレーニングというように、生活のリズムに組み込まれている方は長く続けていただいています。」



支配人 林達也さん

毎年のリニューアルは、予算や会員さんへの告知など難しい面はありますが、各フロアごとに進めています。特に水回りはこまめにメンテナンスを行い、皆さんが気持ちよく使っていただけるように心がけています。今年は30周年を迎えて、プールの全面改修を行いました。いつも来ていただいているお客様を大切にすることが一番大事だと思っています。」

